

おしゃべりコーナー

（目次）

< 西神の花 >

「[ヒマワリ](#)」

（竹の台・タイガー）

< 今月の歌 >

吉田拓郎「[イメージの詩](#)」

（美賀多台・つだわたる）

< ショート・ショート >

「[待つ](#)」

（春日台・大西 No.24）

「[ネパールから『大洪水』の報告](#)」

（竹の台・島田）

返信

（竹の台・本田）

< その他報告 >

「[兵庫県平和美術展](#)」

（竹の台・タイガー）

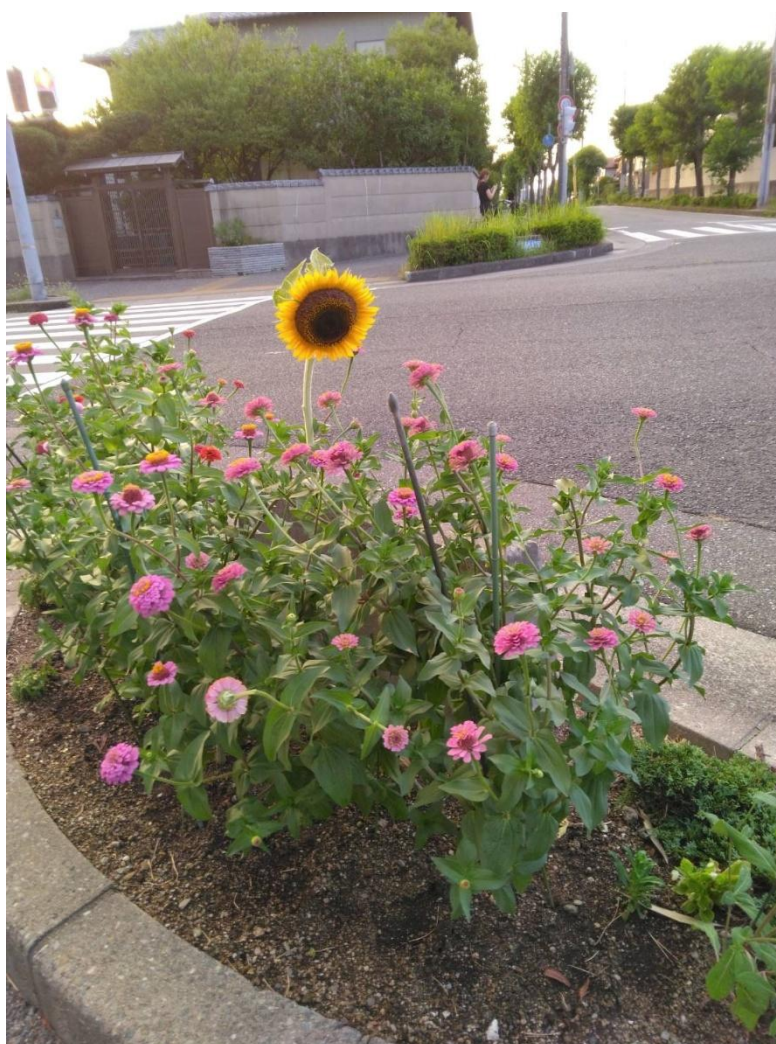
< 西神の花 >

「ヒマワリ」

竹の台5丁目と4丁目の交差点の植え込みで、一輪のヒマワリが凜として咲いていました。

横の百日草は、多分、市の環境局の担当者がお世話されたものと想像しますが、このヒマワリは、どなたのご厚意でしょうか？ あ
るいは、勝手に、どこからか種が飛んできたのでしょうか？

ちょっと不思議です(笑)



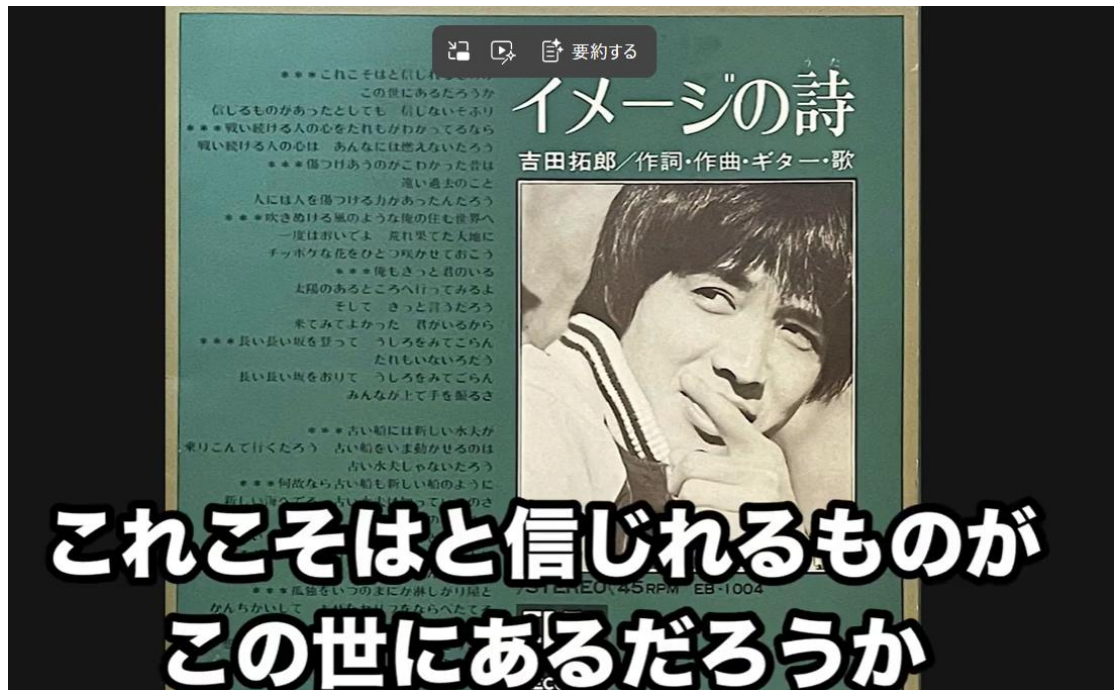
(竹の台・タイガー)

[目次へ](#)

< 今月の歌 >

吉田拓郎 「イメージの詩」

<https://youtu.be/3xJU8DEnDIA?si=2qjwjQq UBPOjw4x>



1970 年代前半が思春期だった私が親しんだ多くの歌は、ニューフォークと言われる分野の歌です。それは流行の末期時分だと思っています。

それと同時期にあったニューミュージックというのもしましたが、演歌やアイドル歌手系の歌とはちょっと距離を置いていました。でもそれらも嫌いではなかったですね。

社会批判、反戦を訴える岡林信康、高石ともやあるいは加川良、杉田二郎の歌も良かったのですが、政治的な知識のない私は、いい加減な学生生活を送りながら悩み多き時代であったので、吉田拓郎の感覚がぴったり合っていました。

その中でも『結婚しようよ』『旅の宿』のような「肯定的」なものより『夏休み』のような「すねた」感じがいいという傾向です。

振り返ってみれば 20 代の私は海援隊『思えば遠くに来たもんだ』『故郷いまだ忘れがたく』井上陽水『心もよう』泉谷しげる『寒い国から来た手紙』という故郷に未練のある歌に惹かれていました。

変なものですが、田舎に帰りたいとは思っていなかったのに、故郷を懐かしんでいました。どこかに「故郷に錦を飾る」ことに未練を持っていたのかもしれませんが

またNHKラジオ「若いこだま」で知った友川カズキ『生きているって言うてみろ』のような支離滅裂、さらにみなみらんぼう『武蔵野情話』のような男と女の嘶にも憧れてもいました。

そういう時代を思い出すとこの歌が、私の青春時代にぴったりだと思いました。

この歌は長いだけで、何かテーマを歌いあげているわけでも意味のある歌詞でもないと思います。ですからこの歌が出された頃は 10 代ではそんなに気にも留めていなかったのです。20 代後半になって、学生時代を振り返った時に、こんな堂々巡りのようなことを考えていたと思ったのです。

♪これこそはと 信じれるものが この世にはあるだろうか
信じるものが あったとしても 信じない素振り
悲しい涙を流している人は きれいなものでしょうね
涙をこらえて 笑っている人は きれいなものでしょうね

♪男はどうして 女を求めて さまよっているんだろう
女はどうして 男を求めて 着飾っているんだろう
いいかげんな奴らと 口をあわせて 俺は歩いていた
いいかげんな奴らも 口をあわせて 俺と歩くだろう

♪たたかい続ける人の心を 誰もがわかってるなら
たたかい続ける人の心は あんなには燃えないだろう
傷つけあうのがこわかった昔は 遠い過去のこと
人には人を傷つける 力があつたんだろう

♪吹きぬける風のような 俺の住む世界へ一度はおいでよ
荒れ果てた大地にチツポケな 花を一つ咲かせておこう
俺もきっと君のいる太陽の あるところへ行ってみるよ
そしてきつと言うだろう 来てみて良かった君がいるから

♪長い長い坂を登って うしろを見てごらん 誰もいないだろう
長い長い坂をおりて うしろを見てごらん 皆が上で手を振るさ
きどったしぐさが したかったあんな 鏡を見てごらん
きどったあんなが映ってるじゃないか あんたは立派な人さ

♪激しい激しい恋をしている俺は いったい誰のもの
自分じゃ言いたいさ 君だけの俺だと 君だけのものなんだと
裏切りの恋の中で俺は一人もがいている
はじめから だますつもりでいたのか 僕の恋人よ

♪古い船には新しい水夫が 乗り込んでいくだろう
古い船をいま動かせるのは 古い水夫じゃないだろう
なぜなら古い船も 新しい船のように 新しい海に出る
古い水夫は知っているのさ 新しい海のこわさを

♪いったい俺たちの魂のふるさとは どこにあるんだろう
自然に帰れって言うことは どういうことなんだろう
誰かが言ってたぜ 俺は人間として自然に生きているんだと
自然に生きるってわかるなんて なんて不自然なんだろう

♪孤独をいつの間にか 寂しがりやとかんちがいして
キザなセリフをならべたてる そんな自分を見た
悲しい男と悲しい女の いつものひりごと
そrでもいつかはいつものように 慰めあっている

(美賀多台・つだわたる)

[目次へ](#)

<ショート・ショート> ちょっとした気づきやつぶやき・・・

「待つ」

紫陽花の葉の上にカタツムリ。
風が吹いて葉が揺れると
カタツムリは、身を殻の中に閉じて
風が止むのをじっと待っている。

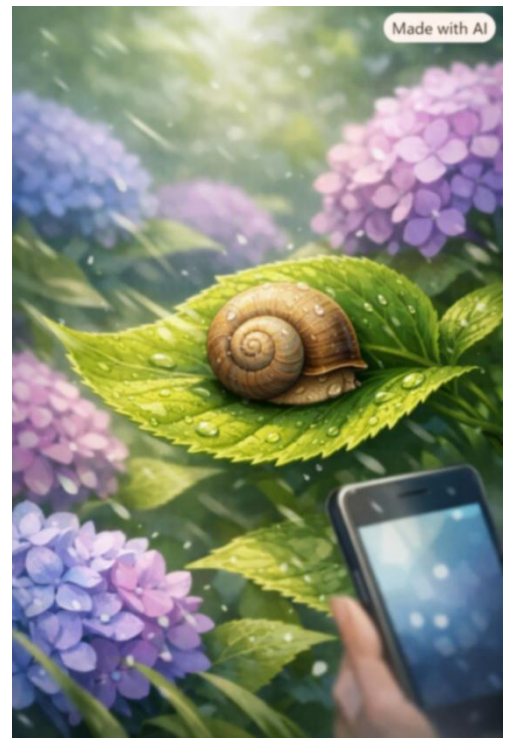
人はスマホを持つようになって
知りたいことが瞬時に調べられ、
相談事があれば
AI がすぐに教えてくれる。

もう待つことは必要でなくなり、
そして人は待つことが
出来なくなってしまった。

「待つ」ことで得られた
体験や経験は、今やすっかり
掌からこぼれ落ちてしまった。

そして時間の高速化や効率化だけを
追い求める社会では
「待つ」ことは許されないことに
なってしまったのだ。

カタツムリは自然の時間をじっと待って
それを受け入れて生きている。



(春日台・大西 No.24)

[目次へ](#)

「ネパールから『大洪水』の報告！」

8月17日からネパールに滞在していますが、26日午前にはラスワ地方(カトマンズから北西80km、中国との国境近く)で大洪水が発生しましたので、その状況を報告します。

メディアに流されている映像、特に、ネパールと中国の国境にある中国の大きな検問所が洪水で一瞬に吹き飛んだ画像には衝撃を受けました。というのは、違う場所の検問所を通ったことがあり、その規模が分かっていたからです。

27日現在の被害の状況は、死者 258 名、行方不明 910 名(そのうち外国人が 690 名)と報道されています。

この洪水は、チベットの氷河湖が雨で崩壊したためようです。You Tube で洪水の後の映像も流れていますが、5年前に宿泊した地域が被害を受けたような画像を見ました。町は洪水があった川の最上流の川沿いにあるので本当に残念です。写真はその時の街の様子です。



ネパールでは最近、洪水が頻発しています。政府統計では 2011～2025/8 までの 14 年間で、山崩れなどによる発生件数は 4629 件、死者 1906 名です。特にこの 5 年間は急激に多く発生しています。これは、気候危機の影響とインフラ整備の圧力で、十分な国土保全がされないまま、道路の建設が行われているからです。トレッキングに行くためには山道をバスで8時間ほどかけて行くのですが、山崩れで道が狭くなっている場所は、バスのタイヤの一部が浮いています。毎年、何台ものバスが谷底に落ちていきます。私はバスに乗るときは必ず、山側に乗ることにしています。本当に命がけの旅行となります。

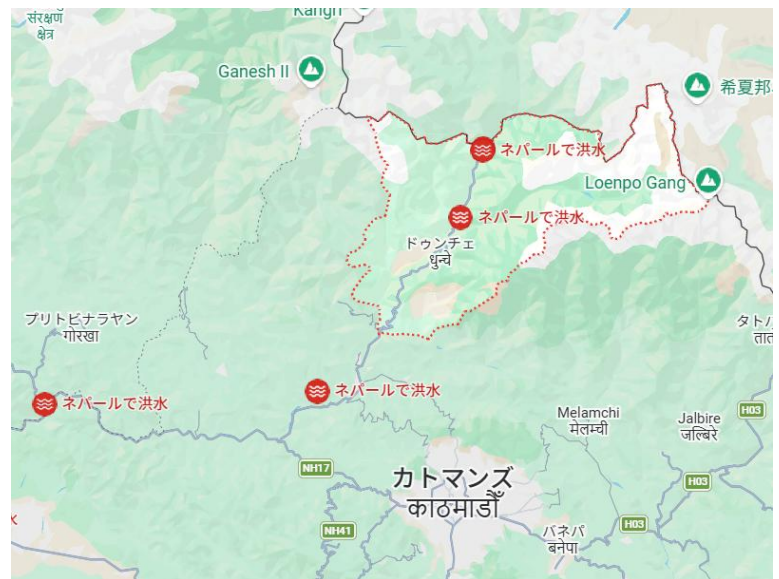
この洪水を見て、気候危機が小国に致命的な被害を与え、経済的に発展する芽をつみ、国家間の貧富の差を拡大させているは明らかです。その責任は先進国にあるのではないのでしょうか。パリ協定から離脱したトランプ大統領には怒り心頭です。また、この気候危機を促進しているのが、世界各地での戦争です。気候危機を遅らせるためにも戦争をやめさせなければなりません。

ところで、カトマンズは、雨期にも関わらず、雨がほとんど降っていないようです。まだ1週間しか滞在していませんが、このような経験は初めてです。

この洪水の受け止め方は、カトマンズ盆地が2000m級の山々に囲まれているため、その向こうの街は、少し遠い世界のような感じです。そのためか、カトマンズは通常の様子です。私の授業でも学生からこの話題が出てきませんでした。その地方の出身者ではなかったためでしょうか。

私がお世話になっている方は、日本での山小屋の仕事を終え、昨日帰国しました。日本にいるネパール人から、「大丈夫か」との電話対応に追われていると苦笑していました。

まずは1報。



2026/8/27 竹の台・島田

(返信)

今日、TELでお元気な声をお聞きし、詳しい現地からのレポートで安心しました。世界のあちこちで起こる異常気象に胸が痛みます。

竹の台・本田トシ子

[目次へ](#)

<その他報告>

「兵庫県平和美術展」

7/29(水)～8/2(日)、王子公園近くの原田の森ギャラリーで第59回 兵庫県平和美術展が開催され、見てきました。

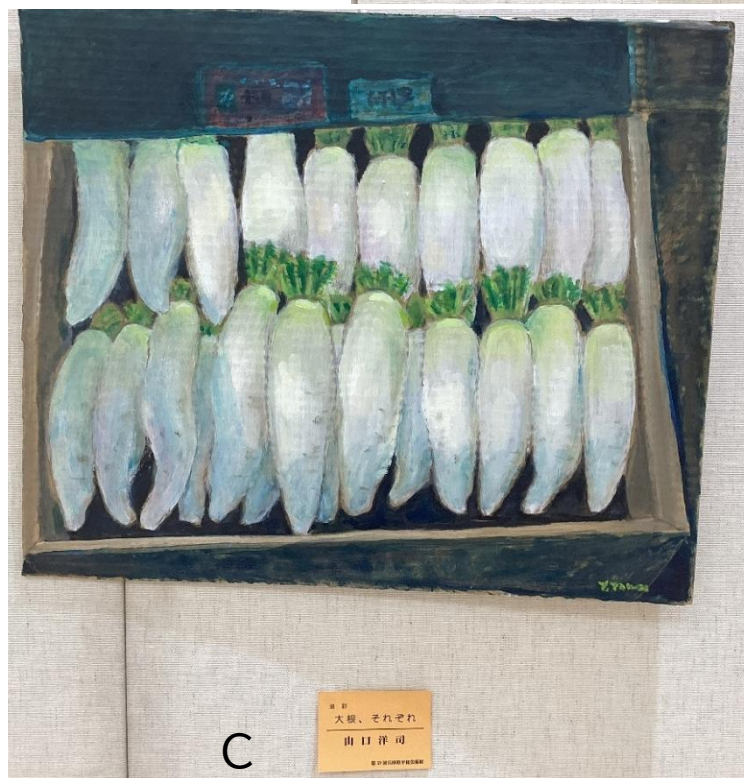
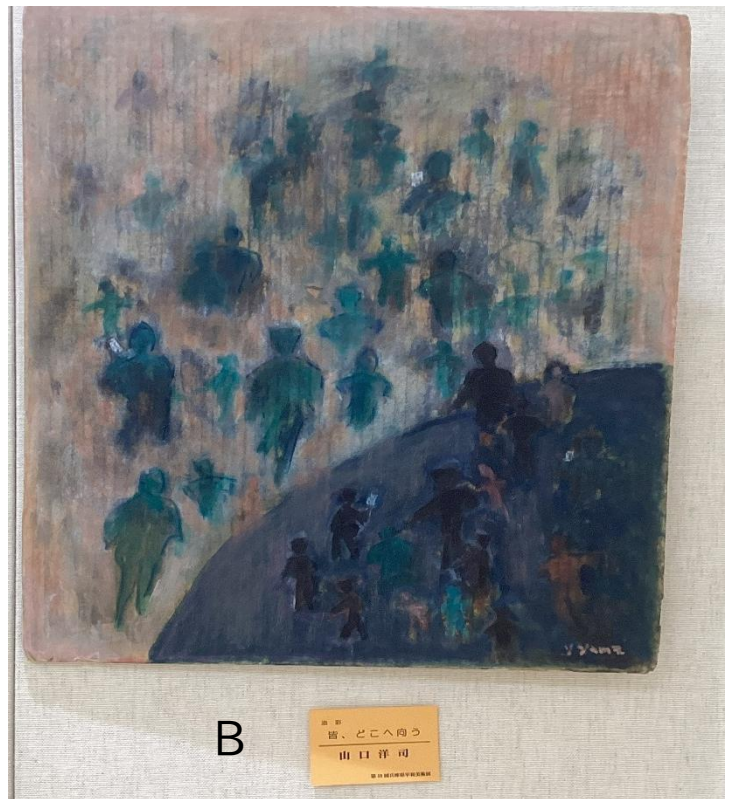
平和をテーマにした絵画、立体造形、写真など約 200 点が出展されていました。

今回は見ごたえのある力作が多かったですが、中でも、印象に残ったのは、宇田英樹さんの A「戦争の道具は要らないね」と、山口洋司さんの B「皆、どこへ向う」と C「大根、それぞれ」でした。

A は、軍艦や潜水艦を前に、子供が普通に意見を述べ合っている様子が頼もしく見えました。



B は、どこかに向っている群衆が描かれていますが、よく見ると、手に手にスマホを持っているらしいことが不気味さを醸し出しています。群衆って、自分の頭で考えずに、誰かに導かれているのでは、と考えさせられました。



(竹の台・タイガー)

[目次へ](#)